

会議名	令和2年度第1回板橋区地域自立支援協議会
開催日時	令和2年7月15日（水） 14：00 ～ 16：00
開催場所	板橋区役所北館11階 第二委員会室
出席者	<p>[委員 13名]（敬称略）</p> <p>是枝会長、石川副会長、田中委員、長瀬委員、片山委員、佐々木委員、棟方委員、山口委員、清水委員、鈴木委員、野原委員、西端委員、河西委員</p> <p>（欠席2名）</p> <p>【オブザーバー 3名】</p> <p>山本予防対策課長代理、飯嶋おとしより保健福祉センター所長、村山志村福祉事務所長</p> <p>【事務局 6名】</p> <p>榎木福祉部長、小島障がい政策課長、管理係1名、自立支援係3名</p>
会議の公開	公開（傍聴できる）
傍聴者数	5名
次 第	<p>1 委員紹介・事務局紹介</p> <p>2 令和2年度 第1回板橋区地域自立支援協議会</p> <p>(1)開会・会長挨拶</p> <p>(2)令和元年度 定例部会報告</p> <p>① 第1回 権利擁護部会</p> <p>② 第2回 障がい当事者部会</p> <p>③ 第1回 就労支援部会</p> <p>(3)協議事項</p> <p>① 板橋区障がい福祉計画等の策定方針について</p> <p>② 地域生活支援拠点等の整備について</p> <p>(4)報告事項</p> <p>板橋区ユニバーサルデザイン推進計画2025についての報告</p> <p>(5)閉会・副会長挨拶</p>

<p>配布資料</p>	<p>< 資 料 ></p> <p>部会報告資料</p> <p>①令和元年度 第1回 権利擁護部会報告書</p> <p>②令和元年度 第2回 障がい当事者部会報告書</p> <p>③令和元年度 第1回 就労支援部会報告書</p> <p>資料1 板橋区地域自立支援協議会 第7期 委員名簿</p> <p>資料2</p> <p>①板橋区障がい者計画【骨子案】</p> <p>②障がい福祉計画等【策定方針】</p> <p>③国の基本指針概要</p> <p>④アンケート実施状況</p> <p>資料3 地域生活支援拠点等の整備について</p> <p>資料4 板橋区ユニバーサルデザイン推進計画2025「後期実施計画」の策定方針</p> <p>① 概要</p> <p>② 本編</p> <p>参考資料 席次</p>
<p>審議状況</p>	<p>1 委員紹介・事務局紹介</p> <p>(事務局)</p> <p>令和2年度第1回板橋区地域自立支援協議会より、人事異動に伴い新しく計3名の方が委員となり、委嘱期間につきましては、令和3年3月31日までとなっております。委嘱状の交付につきましては、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑みまして、郵送にて事前に送付をさせていただいております。続きまして、事務局に係るご連絡をさせていただきます。組織改正に伴いまして、令和2年度より障がい政策課自立支援係におきまして担当させていただきます。それでは、次第に従いまして、開会のご挨拶を会長にお願いいたします。</p> <p>2 令和2年度 第1回板橋区地域自立支援協議会</p> <p>(1) 開会・会長挨拶</p> <p>(会長)</p>

本当に世の中がコロナ禍で非常に慌ただしい中、大学の方もウェブ授業が中心になって、なかなか学生が大学に入れないという状況が続いております。各事業所等でもいろいろ大変な思いをされているのではないかと思います。対面で集える貴重な機会ですので、今日は各定例部会の報告、板橋区の障がい福祉計画等の策定方について、基本的な内容のご提案に対して、忌憚のないご意見を出していただければと思います。

(事務局)

それでは、ここから先の協議会の議事進行を会長にお願いしたいと存じます。

(２) 令和元年度 定例部会報告

(会長)

それでは、次第に沿って進めていきます。まず(２)の定例部会報告についてです。事務局に部会の報告・説明をお願いします。

(事務局)

各権利擁護部会、障がい当事者部会、就労支援部会について報告を申し上げます。

(事務局から、部会報告資料①②③について報告・説明)

(会長)

ただいま３つの定例部会についてのご報告がありました。委員の皆様からご質問・ご意見・補足等がある方はおりますか。

(委員)

権利擁護部会で１件、セクハラ行為があったという事例について、これは先日板橋の区議会に陳情が出されていた件と同一でしょうか。

(事務局)

こちらは、権利擁護部会のときに資料で事例等を挙げて検討を行ったところですが、虐待防止法の観点からも、今のご質問に関しては陳情であった件と同一である、同一でない、ということを含めてお答えができないというところです。ご理解いただければと思います。

(会長)

ほかにご質問・ご意見等ございますか。

(委員)

障がい当事者部会の内容で、発達障がい者支援センターの運営について、現時点では何か活動などはされているのでしょうか。

(事務局)

発達障がい者支援センターは、当初は令和2年4月からの本開設を目指しておりましたが、オリンピック・パラリンピックの建設需要といったところで、向原にある本施設は、今年度の秋完成を見込んでおります。そちらに向けて準備を進めております。それ以外の部分において、4月から開設に向けた様々な準備を進めており、今後は、発達障がいの方々の実態の調査を含めた取組等も考えております。事前の出張相談といったところも計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、今、動向を見ているところです。

(会長)

それでは、次の議題に入ります。

(3) 協議事項

① 板橋区障がい福祉計画等の策定方針について

(事務局から、資料2①②③④について説明)

(会長)

ご説明いただいた内容に関し、委員の皆様のからご質問・ご意見等がありましたら、それぞれお願いいたします。

(委員)

今回は第6期ということになりますが、第5期、これについて、もう少し深掘りした振り返りが必要だと思いますが、それを自立支援協議会などで行うということはいかがでしょうか。

(会長)

それはご提案ということになりますか。

(委員)

そうですね。計画を立てたときに、作成しただけで終わってしまっては、実効性に欠けるので、プランをつくった後、実行し、振り返ってチェックをし、そこでチェックした内容に沿って変更や見直しをするという作業を

	<p>したほうが、計画の実効性が上がっていくと思います。第5期の計画を策定してから今までの要素を見ていると、振り返りの作業が十分に行われていないような印象を受けております。</p> <p>(事務局)</p> <p>委員ご指摘いただいた部分につきましては、ほぼ素案の段階で事業等を設定していくに当たり、現行の取組等をさらに詳細に評価・点検していく必要があると思っております。こちらは各所管への確認含めて現在進めているところになりますので、そういった進捗状況が分かるような資料を次回の素案の協議をいただくときには、お手元にご用意させていただき、いろいろなご意見等を賜ればと考えているところです。</p> <p>(会長)</p> <p>次回、振り返りの部分含め、素案でこういうところ辺りから踏みこめるといような案になれば、それに対して我々のほうでも意見を言いやすいと思うので、次回のときに、ということよろしいでしょうか。</p> <p>(委員)</p> <p>その際には、もう少し具体的な数字や状況を説明していただけるということよろしいですか。</p> <p>(事務局)</p> <p>現計画で位置づけておりますサービスの見込み量、それに基づく実績等含めて、集計等作業をしているところです。そういったものを見て取れる資料をご用意の上、ご協議いただきたいと考えております。</p> <p>(会長)</p> <p>関連する内容でもほかのご質問でも、ぜひ忌憚のないご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>(委員)</p> <p>障がいのある子もない子と書かれているところは、本当に大事なところであると思います。障がいがあるからどうこうということではなく、その子一人一人を見て関わるということが根本になると思うので、そのような言葉がふさわしいと思いながら読んでいるところです。そのうえで幾つかお伝えしたいことがあります。他委員の方との発言につながるところです</p>
--	--

が、データを抽出するときに、障がい児の数が知的障がいと身体障がいだけでしたが、現状は発達障がいの方が、知的障がいは取れないということで、精神の手帳を子どもの段階から取得される方もおります。数はすごく少なく、15歳以上になってから、何らかのサービスを受けるために持つ方も多いですが、数としてはいるので、障がい児の数に精神障がいを入れていただくことが必要だと思います。それから、療育を受けるための受給者証の数ですが、これが障がい手帳を取得していない子どもの数に若干関係してくるところだと思います。受給者証を取得してから、手帳を取得される方がいるので、数が重なってしまうところもありますが、低年齢の気がかりなお子さんたちの数の把握については大事だと思います。これから事業所を拡大していくというときのニーズなどにも繋がるので、データとして抽出していただくと、次の展開の見込みがもてると思います。それから、障がいのある子もない子も一緒にというような形で記載されているところですが、地域によっては副籍や特別支援学級と通常級の交流が市区町村も含めて取り組みがとて進んでいるところもあるので、そういった実態がどのようになっているのか知っていけるようにして欲しいと思いました。極端なところで、肢体不自由の学校に行ったほうがいいのかなと思うようなお子さんでも、通常級で何年も小学校、中学校まで行かれた方もいます。そのような環境で過ごすと、やはり周りの方たちが当たり前のように車椅子の介助とかが上手になり、二十歳になっても一緒に仲間で過ごしていくというような、そういう形になってくる。そういったことが、親御さんの負担がなく、それから学級の負担というか、心理的負担もなく、気持ちよく安心して成功体験としてできるような形をつくっていくために、今何が必要なのかなというところを、区に知っていただけて、またそのようなことを教えていただけると、有難いと思います。

(事務局)

まず障がい児の数の捉え方ということにつきましては、ご提案いただいた内容を含めて確認をさせていただき、反映を含めて検討させていただきます。また、ご紹介いただいた特別支援学級などのお話、副籍制度、この辺ですけれども、現在の地域保健福祉計画における計画事業にもなっている

ところなので、こちらにつきましては、素案の段階の事業といったところで触れてまいりたいと考えております。

(会長)

貴重なご意見ありがとうございました。そのほか、いかがでしょうか。

(委員)

障がい者を雇用している企業側からお話をさせていただきます。17ページ重点項目3のところが非常に気がかりになっているところです。弊社も創業して約30年位経過しますが、入社をして30年たって、障がいが進んで体幹が保てないですとか、脳性麻痺が進んで就労に堪えなくて退職を余儀なくされる社員がこここのところ数名出ております。企業側としては、できることはここまでとは思いますが、ぜひそういった方が職を離れてもきちんと生活できるような支援を是非区にお願いをしたいと思います。

(会長)

平成30年障がい福祉施策推進委員会の報告書の中では、高齢の障がい者の方たちをどうしていくかというところ辺りが重点課題にもなっておりますので、その就労されている方、ご家庭で生活されている方、あるいは入所されている方も含めて、そうした方たちにどう対策を取っていくかというところは、今後考えていかなければならない課題だと思います。他いかがですか。

(委員)

先ほど他委員の方からもお話がありました副籍も含め、区内のお子さんたちで障がい、もしくは障がいがなくとも支援の必要なお子さんたちへの理解が日々現場にいると本当に切実です。そこが気になるところでもありまして、例えば今日ある保育園に巡回相談で行ったときに、そのお子さんに支援が必要ということが分かり、一度発達支援事業に保育園の先生たちが促し、よりそのお子さんに合った関わりというところをその児童発達支援事業の中で実際に受けながら、というところはとてもいいと思うのですが、やはり目指すべきところというのは、障がいあるないにかかわらず、周りのお子さんたちがどう関わっていくかというところだと思います。こちらに示されている特性に合った支援の充実ということもとても大事です

が、同じぐらい、周りの人たちの理解とかが大事だと思います。実際に保育園の先生方は、障がいのあるお子さんたちの研修を受けられているので、そういったところもこちらのこの計画、多分素案とかにも入ってくると思いますが、区の計画として、ソフトの部分をすごく大事に考えていますよというところを入れていただけると、ハードだけでなくソフトもきちんと捉えているのだと理解していただける計画になると感じました。

(会長)

書き方などを工夫して検討していくことがいいかと思います。他にありますか。

(委員)

9 ページ、骨子案のところに、今後はニーズに応じた発達障がい者支援センターの機能強化を図るとともに、子どもの発達支援センターをはじめとする関係機関などとの連携を強化し、発達障がいのある方が安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいく必要があるとなっております。そのとおりだと思います。そこで、もう 1 回発達障がい者支援センターの発達障がいの支援の目的を共有しておきたいと思います。発達障がい者支援センターをつくったから終わりということではなく、ここで潜在しているひきこもりの方々など、発達障がいの大人で支援を受けれずに生活している人、そのような人たちをこれからどのように支援していくか。発達障がい者支援センターができたことにより、今まで支援を受けれないまま埋もれてしまっていた人たちが、表に出てくることになると思います。そうすると、今度はこうした課題を整理したり、具体的な提案をしたりするために、おそらく今後関りが必要になってくるのは相談支援部会と当事者部会だと思います。当事者の社会参加なども含め、地域の在り方などを提案していき、発達障がいの方が暮らしやすいように、地域全体が関わっていかなければと思います。それがワーキングチームなのかどうか分かりませんが、そのような課題を検討し、整理するような場所が必要だと思います。

(会長)

これ以上はおそらく自立支援協議会の中に定例部会を入れ込むのはなかなか物理的に難しいと思いますので、今のご提案は、関連のある当事者部会

	<p>や相談支援部会の枠組みの中で、そういうことについても少し議論できるようなワーキンググループのようなものをつくっていただけたらという提案でよろしいでしょうか。</p> <p>(委員)</p> <p>新たな課題ですので、実際に共有することが大事だと思います。</p> <p>(会長)</p> <p>発達障がい者支援センターに関する内容も含めて、部会の中の提案という形で、自立支援協議会に対して意見を出していただければ、協議会としてそのように動けると思います。他に何かありますか。</p> <p>(委員)</p> <p>策定概要２枚目のところに、策定スケジュールと策定委員会のことも書いてありますが、策定の素案などは、この策定委員会である程度できるということではよろしいのでしょうか。</p> <p>(事務局)</p> <p>こちらにつきましては、策定委員会のほうに骨子案等を含めてご協議いただき、再度修正を加えていくといったところです。その後、段階的に、自立支援協議会含めてお示しさせていただき、本会だけではなく、定例部会のほうにもご報告させていただきます。該当する分野に対し、重点的にご意見をいただきながら、取りまとめてまいりたいと考えております。</p> <p>(委員)</p> <p>そうすると、その前に我々は少し意見を言えるのでしょうか。それともこの会議の場だけで発言ということでしょうか。</p> <p>(事務局)</p> <p>協議会の設定が頻繁にできないため、ご意見等がある際は、会の後ほどでも結構ですので、メール等でご意見賜れば、反映してまいりたいと考えております。</p> <p>(委員)</p> <p>資料のほうを先に頂いて、検討させていただけるという理解でよろしいですか。</p> <p>(事務局)</p>
--	---

	<p>時点時点で整えて、資料のほうをお示しさせていただき、ご意見を賜ればと考えております。</p> <p>(会長)</p> <p>時期を区切ってメールやファックスなど、通信手段を使って期日までに何かそれぞれ提示されたものについてのご意見等を事務局のほうに返すというような形の手続が少しずつ入ってくるという形ですね。</p> <p>行政によって名称が違いますけれども、大体このようなプランはやはり策定委員会とかプラン作成委員会みたいなものがあって、そこで検討したものを事務局に渡して、それで自立支援協議会の中で総合的に諮るというような形で手続を進めておりますので、そういう手続に沿って進めているということですね。我々の意見は、何かあったときにはもう出せる、返せるという形での確認かと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>ほか、いかがでしょうか。</p> <p>(委員)</p> <p>その意見を会以外のところで、例えばメールなどで出した場合の意見なども、同じように委員の皆様で共有できるようにしていただけるのでしょうか。</p> <p>(事務局)</p> <p>委員の皆様が差し支えなければ、共有させていただければと思っております。</p> <p>(会長)</p> <p>いただいた意見を集約していただいて、また次に反映させていくということで、言い足りなかったとか、もうちょっと時間を見てこのところはどうなのだろうということも含めて、我々のほうから事務局に期限を区切って発信するという形でよろしいでしょうか。</p> <p>(事務局)</p> <p>そのような形で期限を設定させていただき、ご周知をさせていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>(会長)</p> <p>それでは、その次地域生活支援拠点等の整備について、事務局のほうから</p>
--	---

ご説明をお願いします。

② 地域生活支援拠点等の整備について

(事務局から資料3について説明)

(会長)

先ほどご報告のあった骨子案の中にも、重点項目3ということで地域生活支援拠点等の整備というところで書かれている部分を、より細かくご説明をいただいたところですが、何か皆様のほうからご質問、ご意見等ありましたらば、お願いいたします。

(委員)

地域生活支援拠点については、実は以前から議論の議題として上がっていて、私の知るところだと、自立支援協議会の中でも3年単位に地域生活支援拠点について今ある課題とそれの解決案をまとめて提出してくださいということを行った経緯があります。2017年のたしか年度の初めての本会でその意見がまとめられたものが出ていると思いますが、皆さんはご承知でしょうか。

(事務局)

ご指摘いただきましたとおり、平成29年度でご協議いただいた経過がございます。ただ、そのときは大体6期の委員の皆様だったと考えてございますので、今回第7期という形で委員の皆様も替わっているという状況がございますので、改めてこの情報提供を含めてご協議いただきたく、ご報告をさせていただいております。

(委員)

続けてよろしいですか。そのとき私は委員ではなかったのですが、同じ書式に載せていただいて、意見を提出しました。ただし、その意見は委員ではなかったので実際協議会の中で取り上げていただけなかった。委員になったので、できれば、そのとき提出した意見も参考のために現協議会の中で取り上げていただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

(是枝会長)

ご意見として再度出していただければよろしいかと思います。

(事務局)

	<p>事務局の手元に当時いただいたご意見がございますので、差し支えなければこの情報を他の委員の皆様提供させていただければと思います。</p> <p>(委員)</p> <p>よろしくお願いします。</p> <p>(会長)</p> <p>共有ということでよろしいですね。では次どうぞ。</p> <p>(委員)</p> <p>地域生活支援拠点を令和２年度末までにつくるということですが、令和５年にできる板橋キャンパス跡地で幾つかのものをやるということになっているので、令和２年度末までに実施はできないわけですね。それまでの間、例えば体験の機会とか緊急時の受入れ・対応はどうされていく予定でしょうか。</p> <p>(事務局)</p> <p>国のほうから令和２年度までに各市区町村、この機能をそろえて取組を進めていくように示しがあったところですが、現状といたしまして、約半数ぐらいの市区町村でしかまだ設置ができていないというような状況です。そのような中、国からも、完全な形ではなくても令和２年度まで一定の形を整える中で、より充実等をそれ以降もしていってくださいという形になっておりますので、板橋区においても、そういった形で進めてまいりたいと考えおります。今お話いただきました緊急時の受入れ・対応、体験の機会・場といったことにつきましては、令和５年３月の板橋キャンパス跡地というような予定はあるところですが、それ以外の受入れ先等を含めて、関係のある事業所等と相談し、少しでも拡充できるような形で調整を図ってまいりたいと考えているところです。</p> <p>(委員)</p> <p>相談のところですが、基幹相談支援センターは、高島平の障がい者福祉センターで行うことになるとと思いますが、センターの今の規模で、１か所だけでできるのでしょうか。</p> <p>(事務局)</p> <p>こちらにつきましては、現状と変わらないという形で捉えているところで</p>
--	--

す。障がい者福祉センターは指定管理事業で行っているところですが、来年度以降の5年間の事業所の選定を進めているところでございます。その中の位置づけとして、地域生活支援拠点等の整備の取組もご提案いただくことを考えております。それに必要な体制等については、最終的には事業所のご意見も伺いながら整えていく必要があるといったところで、現行の機能・状況で対応できるとは考えておりません。充実等を図っていく必要があると捉えております。

(委員)

続いて、2番目の緊急時の受入れ・対応のところ、3ページの真ん中辺りに、現在赤塚ホームも緊急保護事業を実施しておりますが、受入れ体制の充実や利便性向上を求める声があります。新たに受け入れ先を設けるとなっているが、赤塚ホームでなぜできないのですか。赤塚ホームは緊急保護という区の単独事業、他区でやっていないところもあると思いますが、板橋区はこの赤塚ホームのおかげで、多くの人が助かっていると思います。ここを充実して、赤塚ホームでも緊急時の受入れ充実させて、ほかの短期入所施設でも受入れをするとしたほうが、区としてもすすめていきやすいと思います。

(事務局)

現状といたしまして、赤塚ホームの可能性については検討させていただいているところでございますが、ご利用の状況を見ると、どうしても閑散の差が激しいというところで、そういった中での緊急時の受入れ、看護師の配置など課題等もあるところです。そのような状況を踏まえて、緊急時の受入れをどのようにできるか関係所管で検討しているところです。

(会長)

そのほか、いかがでしょうか。

(委員)

地域生活支援拠点については、相談支援部会でも何年も前から検討を重ねており、実際に先行の事例の場所にも部会の方が見学に行かれたり、区の方も行かれたりというところでした。やっと板橋区のほうで形ができてきたので、安心しているところと、状況としてはあまり細かい具体的な検討

が進んでいない印象です。本当に令和２年度、今年度の末までにある程度形になるのか心配だという声も多くいただいています。特に、基幹相談支援センターなどを中心にして、相談支援事業所が中心となって地域のニーズや困ったところをさらに掘り起こしていくという機能が多いと思いますので、現在の計画相談事業所などはプランの作成で手いっぱいという状況もありますので、この新拠点が本当に形としてできるように、それぞれのいろいろな障がいの方や、事業の方、また高齢の方含めて、部会やこの協議会だけでなく、いろいろな意見を集められるような形をとって、今あるものをさらに形にしていくこと、それから、足りないものは何かというものを洗い出していけたらと感じています。

(会長)

そういう細かな現場のご意見をぜひ期日を決めて提案していただければ、より参考になっていくのではないかなと思います。

(委員)

２番目の緊急時の受入れ・対応と体験の機会・場について、板橋キャンパスの跡地のところで行うことになり、場所があるということに、安心はしています。ただ、ここは中身を見てみると、重度のグループホームと短期入所になっていますが、重度といっても身体的に重度の方、身体・知的も重度の方という、そういう方はここで緊急時の受入れや体験はできることになるかと思います。ただここに行動障がいの方が、体験や緊急時の受入れを受けてくれるのかというところ。そこも大きな問題だと思います。現在、赤塚ホームでは、全員ではないですが、ある程度行動障がいのある人は受け入れています。ただ、ここは夜勤ではなく宿直なので、夜間寝ない人を受け入れられないという状況があります。そういう事情に、少しお金をつけていただいて、夜寝ないから駄目ではなく、行動障がいの人でも受け付けてくれるところは確実に探していただきたいと思います。どの制度でもいえることですが、行動障がいのある人だけ取りこぼされていることが多く、結局、自宅で家族が面倒見るしかないということになり、大変なことになってしまっていると思います。板橋キャンパス跡地では、行動障がいのある人に対応してくれますか。

(事務局)

現状では行動障がいの方々を受けられる、受けられないについて、明確に回答できないですが、今後事業者と様々調整を図っていくなかで、そのようなご意見を踏まえて検討したいと考えています。

(会長)

場所の問題もあると思いますが、障がい福祉サービスを工夫しながら、行動障がいの方の見守りみたいなものができるよう検討すべき内容だと思いますし、貴重なご意見だと思います。そのほか、いかがでしょうか。

(委員)

虐待で家庭機能に課題があったりする場合、そういった方々をサポートするような機能があるのでしょうか。

(事務局)

地域生活支援拠点等の整備という中で、虐待に関しては、様々な家庭のご事情を含めた背景等に起因して起こるようなところもあり、ご家族の方への適切な障がいサービスの提供につなげることで、解消される側面もありますので、そういうところも含めて相談体制の中で対応していく必要があると考えています。

(委員)

医療機関に入院しても、やはり区全体が支えないと、帰るところがないとみていただけないというようなこともあるので、そういったところを区で担っていただけるとありがたいかなと思いました。

(会長)

それでは、次の報告事項のほうに入ってまいりたいと思います。

(４) 報告事項

板橋区ユニバーサルデザイン推進計画２０２５についての報告

(事務局から、資料４①②について説明)

(会長)

今後細かい部分というのが策定されていくという形になるかと思いますが、現時点で委員の皆様から何かご質問、ご意見等ございますか。

(委員)

区民の浸透度、ユニバーサルデザインに関する理解度が低いという問題が挙げられていました。実際に何で理解が進まなかったかというと、分かりづらいというところがあるのではないかと思います。アイデアですが、こうなったらいいねという誰でも分かる具体的な理想像のような形を示すというのも手法の一つと思いました。

(会長)

ご意見として参考にさせていただければと思います。ユニバーサルデザインという言葉自体は元々建築のほうから入ってきた言葉なんですけれども、学校教育で授業のユニバーサルデザインとか、いろんなものに応用されるような形になってきているので、徐々に浸透されていくのではないかと感じています。また改めて協議会の中で話が出てくるかと思うので、ご意見等いただければと思います。

その他

(委員)

発達障がい者支援センターに関してなんですが、区主催の講演会を以前より11月に計画していたと思いますが、これがコロナの関係から、中止になる可能性もあると聞いております。12月の障がい者週間も多分パネル表示になるだろうとも聞いております。これらは、とても重要なことなので、やる・やらないということだけではなく、どういう方法ならできるのかを考えて欲しいです。コロナだから全てが止まる必要はないと思っています。例えば、今300人の会場を押さえていると思いますが、それを不特定多数の人が来ないように50人規模で行うとか、自立支援協議会のメンバーで行うなど、実施方法を検討するというのが、とても重要だと思います。やる、やらないというのは個別の判断じゃないと思っています。

(会長)

場所の問題や社会情勢の問題などいろいろございますので、例えばウェブ公開など、いろいろの手だても考える余地もないわけではないというところで、ご検討いただければと思います。ほかに何かございますでしょうか。

(委員)

当協議会もそうですが、傍聴者資料について、傍聴者に出される資料は持ち帰る場合に料金を払わないといけないという決まりになっております。考えるに、無料で持ち帰れるようにしたらどうかと思います。どうして有料なのか、ではどうすれば無料で持ち帰れるようになるのかということをお教えいただきたいと思います。

(会長)

協議会に限ったことでもないのかもしれませんが、何かありますか。

(事務局)

そちらにつきましては、区全体の取決めでそういう位置付けになっております。ご意見があったことにつきましては、担当部署のほうにお話をさせていただければと存じます。

(会長)

ほかはよろしいでしょうか。

(委員)

13日に全ての資料を頂いて、圧縮ファイルを解く作業がなかなかできなかったもので、もう少し資料を早く送っていただけると助かります。

(事務局)

申し訳ございません。今回、計画策定のところの取りまとめに少し時間を要してしまいまして、資料の送付が直近となってしまったことにおわび申し上げます。次回以降の話になりますが、1週間ぐらい前をめどに皆様のお手元に届くよう調整してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。また、これから計画ものになるとかなりデータ量が多くなるので、今回のように容量が限られていると難しいところがあります。もしご希望があれば郵送でも送らせていただきます。また、皆様のパソコン、受ける側の設定でそれぞれ違いがあり、今回容量の関係で送れなかった方が数人いらっしゃいます。その関係でファイルの圧縮など含めて対応させていただいたところです。

(委員)

次の計画の素案は量も考えて郵送のほうが皆さんよろしいと思います。

(事務局)

ご指摘いただいたとおり、計画についてはかなり厚みのある資料というところですので、次回以降、郵送で資料をお送りさせていただければと思います。電子のご希望の方はお伝えください。

(会長)

それでは、一旦事務局のほうに司会をお返しいたします。

(事務局)

本日はご協議をいただきましてありがとうございました。最後、閉会に当たりまして、副会長からご挨拶をいただければと存じます。

(５) 閉会・会長挨拶

(副会長)

今回は令和２年度の第１回板橋区地域自立支援協議会、各種の報告事項と協議事項に板橋区障がい福祉計画等の策定、地域生活支援拠点等の整備について、活発なご議論をいただきまして、ありがとうございます。社会福祉法の改正が６月に国会で成立したと聞いております。それを見ますと、地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律というように法律の立てつけも変わっているというか、地域共生社会というのを全面に押し出すという形になっております。中身を読んでも、断らない相談体制、参加支援、地域づくりに向けた支援を目的とする新しい支援事業を創設するというふうに国の法律のほうでもなっているところだと理解しております。さらに、介護保険法や老人福祉法等の一括改正ということもあります。まさしく全ての人を対象にしたということが様々な分野でもう実現をしていかなければいけない状況かと思います。今後、この自立支援協議会あるいは各部会において具体的に出てくる経過について、またその現場からの声を反映して、実効性のあるものをつくり上げていかなければいけないということで、この１年間のこの協議会の任務は非常に大きなものがあるかと思います。委員の先生方、本当に日頃の業務でお忙しい中ですが、ここを充実させることが来年度以降の私たちの活動をまた改善していくことにつながるかと思いますので、引き続きご協力をお願いしたいと思います。また、行政には、専門的な人材の確保・養成というところ

	<p>をぜひ離さないで、実際具体的に養成をしていただいて、文書を作ったり箱物を造ったりだけでは、済みませんので、そここのところの計画も含めて今後しっかりつくっていただきたいと思います。本日はありがとうございました。</p> <p>5 閉会</p>
所管課	<p>福祉部障がい政策課自立支援係</p> <p>(電話：３５７９－２０８９)</p>